

須加院川ありがとう			須加院川の会 第 070号
連絡先事務局	〒679-2132 姫路市香寺町須加院470-1	電話とファクス	発行日 H22. 6. 28
メー ル	blue_sky@gaia.eonet.ne.jp	079-265-3631	発行 上月時男
ホームページ	http://www.eonet.ne.jp/~sukain/index.html		編集 上月勝好
	http://himeji.genki365.net/gnkh09/mypage/index.php?gid=G0000074		印刷 小野高速

‘10/07～‘10/09 月の予定

	月 日	時 間	集合場所	中止・決行は集合時刻に集合場所で発表
178	7月4日(日)	AM8:00～ ～10:30	・香呂南小前	・河川敷花壇の手入れと花壇まわりの草刈およびゴミ拾い ・河川敷花壇付近～増田屋橋間の草刈と周辺のゴミ拾い
179	7月4日(日)	AM10:45～ ～11:30	・田川神社前	・ ホタル幼虫の放流会 (子供会と協働)、移動はマイカーにて放流場所：①北川堰 ②竹の垣内堰 ③横枕堰 ④保喜堰
***	7月5日(月)	PM13:45～ 14:30	・登校橋の橋詰	・ ホタル幼虫放流 (南小4年生と協働) 放流場所：①元新坂堰 ②元幼稚園東の大いちょうの下
180	7月18日(日)	AM8:00～ ～11:30	・香呂南小前	・河川敷花壇の手入れと花壇まわりの草刈およびゴミ拾い ・増田屋橋～新井堰間の草刈と周辺のゴミ拾い
181	8月1日(日)	AM8:00～ ～11:30	・香呂南小前	・河川敷花壇の手入れと花壇まわりの草刈およびゴミ拾い ・新井堰～ラバー堰間の草刈と周辺のゴミ拾い
182	8月22日(日)	AM8:00～ ～11:30	・香呂南小前	・河川敷花壇の手入れと花壇まわりの草刈およびゴミ拾い ・ラバー堰～横枕堰間の草刈と周辺のゴミ拾い
183	9月5日(日)	AM8:00～ ～11:30	・香呂南小前	・河川敷花壇の手入れと花壇まわりの草刈およびゴミ拾い ・横枕堰～馬橋付近間の草刈と周辺のゴミ拾い

須加院川は安全か？



去る5月24日、大雨洪水警報が出て学校は休校となった。上の写真は当日AM7:30、災害時の指定避難先・市立香呂南小に入る五油橋(ゴユバシ)は水面スレスレの状況。**もう2～3時間も大雨が続いていたら**流れが橋を超え渡れない避難指定先になっていた**かも知れません**。また右の写真は学校から300m程上流の字を荒内(アラウチ)と呼ぶ一

帯、路面まで水が上がって来ていたので口須加院の大半が浸水禍に見舞われていた**かも知れない**。有ってはならない大洪水禍に紙一重の状況でした。

須加院川を美しくしたいとしてゴミを拾う為に川原の草を刈る。刈ボカシとの非難も聞くが刈らずに洪水禍はいかがだろう。川底の自然浚渫を促す川原の草刈が防災の一環と知事の感謝状は証明し住民に草刈撤去活動への参加を示唆している。



子の子 vs ボランティア活動

労力を無料で奉仕する活動なら全てボランティア活動と思い込む人は少なくない。またボランティア活動との触れ込みで人を集め無償で人を働かせようとする手口、人の善意をくすぐり、そこに付け込む許しがたい仕掛人が横行するボランティア活動なるものについて考えてみたい。

さて、今日なら誰もが知っていることの一つに、病院で入院患者用の食事を各階に運ぶリフトやナースコールのベルボタン。発明され導入されたのは19世紀、約150年ほど前のイギリスでした。そしてこれを実現した人物こそ後に**“クリミアの天使”**と言われた**フローレンス・ナイチンゲール**でした。

彼女は1820年5月12日、イギリスの大資産家の家に生まれました。大資産家の家というわけですからモチロン上流階級に属します。当時の上流社会の娘達は社交界でふさわしい男性と出会い幸せな家庭人となるのが慣例、つまり常識でした。しかし**フローレンス**は「自分の使命は、病気に苦しむ人々のために生きること」と天啓(てんけい:天の啓示・神の導き・神の教え)を感じ看護婦を目指したという。当時19世紀、看護婦は汚れた職業と蔑視(べっし)されていたので両親は猛反対。それでも**「あきらめという言葉は、私の辞書にはない」**と1851年7月、看護の勉強のためドイツへ渡りました。

そして1853年4月ロンドンの病院に勤務の場を得て、先述のナースコールのベルボタン等を始め数々の改革を実施して行きました。1854年3月、イギリスは**クリミア戦争**に参戦。同年10月、フローレンスは38人のボランティア看護婦を率い戦地へと向かいました。彼の地の状況は劣悪を極めていました。医薬品、食糧、燃料、すべてが足りないのです。伝染病のコレラやチフスも発生していました。当時の戦場での兵士達の死は銃弾に倒れての死亡より病気やけがで死ぬ方が圧倒的に多く、ここでも彼女は食事や設備の改善、物資の調達など一つ一つ改善に取り組みました。

そして痛さに苦しむ傷病兵達に最も感謝されたのは、彼らの手を握り続け励ましたこと。夜もおそくまで各病床を巡回、さらに毎晩おびたしい数の手紙を書いています。本国への報告は当然としても、その他、兵士の家族たちに亡くなった時の様子などをていねいに知らせているのです。1日20時間以上も働きづめの上、その献身ぶりは兵士達に「ナイチンゲールは何人もいるのでは」と思われたほどだったと語り継がれています。

しかし、軍医や将校たちは彼女の存在や行動を妬みます。自分達が教えられ実践して来た従来のやり方をへ理屈で「正」とし、それを守るため彼女の行動を邪魔し攻撃を繰り返す。その証拠の一端、彼女の本国への手紙に**「ここクリミア半島で最大の辛苦は、現状維持と責任回避そして保身しか考えない人たちを相手にすること」**と書き送っているという。(注)クリミア戦争は1853～56年、帝政ロシアと、トルコ・イギリス・フランス・サルデーニャ連合軍との間で起きた戦争。聖地エルサレムの管理権をトルコに要求して南下を図ったロシアに対し、阻止せんとするイギリス等がクリミア半島に出兵し参戦、ロシアが敗北。

戦争が終結し、1856年8月帰国したフローレンスは、兵士達の待遇改善のため陸軍省の改革に着手しました。1860年、念願の『ナイチンゲール看護学校』を設立。**「ごく小さな木の実が、大いなる森林となる日を夢見て」**と、晩年の彼女は看護学校の生徒や卒業生たちと語らうことを喜びとして過ごしました。そしてその死は1910年8月13日、眠りについたままの穏やかなものであったという。世の中の既成概念や古い体質と闘いつつ近代看護の礎を築いた**フローレンス・ナイチンゲール**。

彼女は病人を救うのは宗教者の愛よりも衛生環境であるとして、近代的な看護理論と病院の衛生管理の指導・普及に多大な貢献をし、また自然現象のみでなく社会現象も数字で把握することができるのだということを実証して見せた。更に彼女は女性には家庭に引きこもるだけでなく、社会に出て積極的に活動する生き方があるのだということを実践して見せた。彼女はそういう意味で**クリミアの天使**であっただけでなく、近代思想家でもあり数学者でもありフェミニストでもありました。

話題が大きくそれたので本題に戻そう。ナイチンゲールまでは論外、世のため人の為などとはおよそ縁遠くボランティア活動なんて柄じゃない。徹底して蓄財に励む人が増え続ける現代の社会。多くは両親や祖父母に子や孫までをワガの内とするようですが、近年は夫婦でも我が身のみを我とする利己主義を貫き通す人が増えているという。

曾祖父母の**ひ孫**に当る自分の代では様々の理由で他人の道を選ぶ人も多いと聞く。なれば、四代・七～八十年後の**ひ孫**らも他人。ケチと言われガメって蓄財しても四代後の他人に譲渡した事と同じでは割に合わない利己主義。そのカラクリに気付かれたならナイチンゲールは別としても、少しでも早く利己主義に決別してボランティア活動等に参加し、真にこころ豊かに過ごされてはいかがだろう。必ず新しい人生が目の前に拓がることでしょう。